

絵描き井上ヤスミチの

# ムダなものか すきでして... ②

## コロナ禍での イベント活動あれこれ

2016年の秋からごみっと・SUNの表紙イラストを描かせていただいている井上ヤスミチです。イラストを描く仕事のほかに、土日はイベントで子どもたちの顔に絵を描くフェイスペイント(写真)をしたり、子どもたち対象のワークショップの講師をしたりしています。



ごみっと・SUNの中にエッセイのようなものを書いてみないかとお誘いをいただきまして、絵筆じゃない文章の筆をとることになりました。ごみ問題のことはわからないので、「一見ムダに思えることにも有用なものがあるよなあ」というぼんやりしたくくりで書いていこうと思います。

今回は、新型コロナウイルスの影響でできなくなった僕の活動の話と、感染症対策をしつつ再開するために生じるごみの話と、それでも再開することがムダじゃないという話を。

最初に紹介した通り、僕は受注したイラストを自宅アトリエで描いて納品するという作画仕事以外に、主に土日祝日などに野外イベントや文化ホール等で子ども向けのフェイスペイント及び工作の講師をするという仕事もしておりまして、家で独りでうちこむ作品作りと、イベントで人と触れあって作る企画運営とが、活動の両輪になっていました。

それが新型コロナウイルスの到来によって、イベントでのフェイスペイントと工作ができなくなり、2020年は収入の面だけでなく気持ちの面でも片腕がもがれたような、ちょっと寂しく虚しい1年になってしまったのです。

特にフェイスペイントは、一日に多い時は百人以上のほかに、筆はその都度水洗いするとは言え絵の具やパレットは使いまわして立て続けに絵を描いていくので、立証などはされていませんが感染を広げる恐れがあると感じています。

そもそも皆がマスクをしている中でほかに絵を描きようがないのですが、仮に再開するにしても、筆を使い捨ての安価なものにするとか、チューブから出した絵の具を一人描くごとに紙パレットごとと廃棄するなどの対策が必要なのか、そうすると経費が跳ね上がるしごみが増えるのも嫌だし、採算をとるために値上げも必要。僕が今

までやってきた形での再開はまだまだ時間がかかるなど考えています。

工作については、直接顔に触れるわけではないですし、初夏の小中学校の再開あたりから、どのくらいなら大丈夫なのかを慎重に見つつ、換気を徹底し距離をとり、参加前後に手指消毒をするなどして、少しずつ再開してきました。毎週開催しているメンバー固定の小さな教室から、大きな文化ホールや、不特定多数が相手の公園など、感染対策もケースバイケースで、知恵をしぼって対応しています。一回の時間を短く人数を少数に限定し、一日に何回も入れ替え制で開催することでトータルで大人数が参加できるようにしたり、密になりづらいようスペースを広く使って大きな絵を描く企画を作ったり、道具の共有が避けられるように人数分の道具を用意して番号をふったり。

回数を増やすことで手間が何倍にも増えるし、距離をあけることでちょっとさみしい感じがするし、ペーパータオルなどのごみも消毒のたびに余計にたくさん出るし、それだけやってももちろん感染リスクはゼロではないし、そんなことまでして開催する必要があるの?という疑問がよぎることもありました。

しかし8月の後半、コロナの影響で大幅に短くなった夏休みの最後に、埼玉県富士見市の文化ホールの幅30m以上のガラスに落書きする企画をやった際に、参加したたくさんの家族がそれぞれに楽しんでいる様子を見て、ああ夏休みらしいダイナミックな思い出が作れて本当に良かったな。ムダなことではないな、必要なことなんだなとはっきり再確認できました。



文化ホールの大きなガラスに、少人数限定、30分入れ替えて絵を描く。

衣食住に比べ、絵や音楽や舞台や工作や遊びなどはどうしても生活必需品じゃないと思われがちですが、1ヶ月程の我慢ならまだしも、コロナの状況がこれだけ長く続く中でやはり芸術や娯楽はとてとても大事で、ムダじゃないんだぞと胸をはって、不自由は多いけど知恵をしぼって少しずつ前に進めています。

井上ヤスミチ <http://yasmichi.com>

「ヤスミチ」で検索すると出てきます